令和6年3月

ニュースレター

いりおもての森から

発行：林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

沖縄県石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎１階

TEL　0980-88-0747

No.67 号

辰のように大きく成長！

～令和５年度のセンター業務を振り返って～

令和５年度は、新型コロナウイルス感染症の規制が緩和され４年ぶりに各種の行事等が行われるようになりました。この様な中で今年度の業務を振り返り、大きく三点取り上げます。

一点目は、国際協力機構（JICA）課題別研修の受入れです。当センターでは、これまで北海道センター（帯広）並びに沖縄国際センターから講義依頼を受け研修を行っていますが、令和２年度から新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンラインでの遠隔研修や事前にビデオ撮影した講義内容を研修員が視聴し、後日、オンラインにより質疑応答を行う形でしたが、今年度は規制が緩和され４年ぶりの現地開催となりました。

研修には、ボスニア・ヘルツェゴビナ、カメルーン、コンゴ民主共和国、マラウイ、ネパール、フィリピン、ソロモン、東ティモール、ウガンダ、ベトナム、バングラデシュ、ベリーズ、コートジボワール、エクアドル、フィジー、インドネシア、モーリシャス、メキシコ、ミクロネシア連邦の 19 カ国から 23 名（男性 10 名、女性 13 名）の研修員が参加しました（写真 1、2）。

（写真 1）サキシマスオウノキと研修員（北海道センター（帯広））

（写真 2）サキシマスオウノキと研修員（沖縄国際センター）

今回、担当職員の他に海外の研修員と直接ふれあってもらいたいという観点から、講義内容（「日本の森林や森林管理」、「西表島の森林と森林利用」、「西表島のマングローブ」、「西表森林生態系保全センターの業務」の４つのコンテンツ）を分散し若手職員も講師を務めました。直接研修員とふれあうことができ、大変勉強になると同時に、英語を話せない自分自身にもどかしさを感じました。

この研修を通じて学ばれたことを、それぞれの国で現存する問題の解決に向けて取り組まれることを期待するとともに次年度以降も協力して参ります。

（写真３）出航前の打合せ

二点目は、西表島一周傭船巡視です。西表島の面積の約 85%は林野庁が管理する国有林となっており、その大部分は西表島森林生態系保護地域に指定されています。当センターでは、沖縄森林管理署と合同で平成26年度から傭船による西表島の一周巡視を実施し国有林の全体的な状況把握や植生の変遷等の確認を行っています（写真3、4）。

今年度は沖縄森林管理署だけではなく、環境省西表自然保護官事務所並びに竹富町にお声がけをして４者合同で実施することが出来ました。次年度以降も効率的・効果的な巡視となるよう努めて参ります。

（写真４）鹿川湾から西表国有林１６９林班を望む

三点目は、漂流・漂着ゴミ調査です。平成 21 年度から実施してきた西表島の東部から西部の海岸線における漂流・漂着ゴミ等の影響調査（6 調査地）については、一定の結果が得られたことから令和４年度までの調査結果を取りまとめ終了することとしました。なお、今後とも海岸林における漂流・漂着ゴミ等の影響を注視するとともに、地元が行うビーチクリーンアップ活動等に積極的に参加しマングローブ林等の保全に努めて参ります。

最後に、この紙面で紹介できなかった多くの業務については、当センターのトピックスをご覧いただければ幸いです。令和５年度も残すところあと僅かとなりましたが、これまで無災害、そして健康で過ごすことが出来たことに感謝するとともに、令和６年度の西表森林生態系保全センターの活動が辰（干支）のように大きく成長できるよう安全第一で各種業務に邁進します。

是非、我が林野庁へ！

～令和５年度 農林水産省就業体験実習（インターンシップ 春期）を受け入れ～

２月19日（月曜日）から22日（木曜日）にかけて令和５年度農林水産省就業体験実習（インターンシップ（春期））として、琉球大学の学生１名を受け入れました。

当センターでは、令和３年度からその都度受け入れの準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症や台風の影響等により実施することができず、今回、初めて受け入れることができました。

（写真５）西表森林生態系保全センターの業務内容等を説明

２月19日（月）は自己紹介後、当センターの業務内容、マングローブ林に関する基礎知識並びに西表島に関する説明（写真５）を行い、午後からは西表島へ移動しサキシマスオウノキとタシロマメのモニタリング調査方法（写真６）や大富遊歩道沿いのギンネム駆除について説明を行い、実際にギンネムの伐倒から駆除まで一連の流れを体験してもらいました（写真７、８）。

（写真６）「森の巨人たち百選」仲間川のサキシマスオウノキの説明

２月20日（火）は令和６年度調査予定箇所の星立のヤエヤマヤシ群落（西表国有林137林班）において、九州森林管理局資源活用課の指導を受けながらＯＷＬを使った調査方法を体験してもらうことができました（写真９）。私自身、地上型3Dレーザ（OWL）を使用しての調査は初めての体験ということもあり貴重な経験となりました。午後からは与那田川マングローブ林において、オヒルギの胸高直径や樹高の測定を実際に体験してもらいました（写真10）。

２月21日（水）は令和６年度調査予定箇所の浦内川マングローブ林（上原国有林103林班）において、調査木のタグ確認を２組に分かれて行いました（写真11）。その後、巨樹・巨木100選に選

（写真７）ギンネムの伐倒

（写真８）ギンネムの根株を防草シートで駆除

（写真９）OWLの調査方法を体験

（写真 10）マングローブ林内で胸高測定

定されているウタラ川のオヒルギまで徒歩で移動し生育状況を確認することができました（写真12）。初めてチェストハイウェーダーを着用しての作業でしたが、時間が経つに連れ身軽に動き回る姿が見てとれました。

２月22日（木）は浦内川立ち枯れ被害地調査（上原国有林 103 林班）後（写真 13）、国の天然記念物や国有林の希少個体群保護林に指定されている船浦ニッパヤシへ移動しモニタリング調査方法等の説明を行いました（写真 14）。その後、西表森林生態系保全センターへ帰所し４日間にわたる就業体験実習（インターンシップ）の総括を行いました。

今回、初めて実習生を受け入れましたが、何事にも真摯に取り組む姿が初々しく、また、逞しくも思えました。是非、我が林野庁へ。

（写真 11）悪戦苦闘しながら調査区域の設定

（写真 12）「森の巨人たち百選」ウタラ川のオヒルギの説明

（写真 13）立ち枯れ調査箇所を踏査

（写真 14）ニッパヤシに直接触れる実習生

西表島の樹木いろは⑦

アカメイヌビワ（クワ科）

【アカメイヌビワ】

海岸近くの林や低地に生育し、高さ5～7ｍの常緑の木です。若い枝や葉が赤いことからアカメイヌビワの名前がついたそうです。葉は楕円形で葉先は鋭形です。実（花嚢）は球形です。枝先や葉柄には荒い毛があります。雌雄異株。

（出典：西表島の植物誌）

～ 西表島一周巡視調査を実施 ～

10 月 25 日（水曜日）、令和５年度の傭船による（仲御願島を含む）西表島の一周巡視調査を実施しました。例年は沖縄森林管理署と共同で行っていますが、今年度は沖縄署に加え、環境省西表自然保護官事務所並びに竹富町にも参加していただき、４者合同での実施となりました。

当センターでは、平成 26 年度から毎年、傭船による西表島の一周巡視調査を実施しています。西表島の面積の約 85％は林野庁が管理する国有林となっており、その国有林の大部分は西表島森林生態系保護地域に指定されています。しかしながら、道路や地形の関係から自動車や徒歩では到達できず、普段確認できない場所が存在します。この傭船による一周巡視調査は、そのような場所を含めた西表島の国有林の全体的な状況把握や植生の変遷等の確認を目的としています。

調査日当日の天候は、晴れ。風は若干強かったものの、波はさほど高くなく、海の状態は良好でした。昨年度は天候に恵まれず、実施するまで何度も延期をしましたが、今年度については延期することなく無事巡視を行うことができました。

（写真 15）関係機関との事前打合せ

（写真 16）沖より外離島・内離島を望む（左：外離島　右：内離島）

午前 9 時にうなり崎に集合、関係機関との事前打合せを行ったのち、西表島の周囲を反時計回りに移動しながら船上より巡視を行いました（写真 15、16）。天候に恵まれたため、仲御願島の巡視もあわせて行いました。仲御願島は海鳥の繁殖地として重要であり、手つかずの自然が残っているため、国の天然記念物に指定されていますが、海の状況によっては大型の船でも近づけないため巡視が難しい場所とな

っています（写真 17）。

巡視中、イルカとの接触を避けるために船が停まる場面がありました。イルカは西表島近海における生態ピラミッドの頂点であり、イルカが棲むには多くの魚介類が棲む環境が必須となります。その環境を維持するためには海の環境保全だけでなく、海に栄養分を供給する森林の環境保全も重要となってきます。今回の巡視では西表島近海の生態系の豊かさを感じるとともに、森林だけでなく海も含めた島全体での環境保全、それに携わる関係機関同士の連携の必要性について考えさせられました。

調査結果については、国有林、民有地問わず海岸線にて漂着ゴミを数カ所で確認（写真 18）、また、西表島南側の国有林（鹿川湾から南風見田海岸）において、台風襲来や大雨等が原因と思われる急傾斜地の山腹の小崩壊を数カ所確認しました。

来年度以降も関係機関と連携しながら、効率的な巡視が行えるよう努めて参ります。

（写真 17）仲御願島を望む

（写真 18）多くの漂着ゴミを確認

西表島の樹木いろは②

アカメガシワ（トウダイクサ科）

【アカメガシワ】

平地や山地に生育し、高さ15ｍになる落葉の高木です。葉は卵形で互生し、赤みの強い褐色の色をしています。葉の表面には蜜を出すところがあり、アリが寄ってきます。花は総状花序または円錐花序、色は淡い黄色です。実は偏った球形で熟すと黒くなります。

（出典：西表島の植物誌）

西表森林生態系保全センターからのお知らせ

※ホームページではニュースレターのバックナンバーが確認できます。また日々の活動報告などのトピックスも随時更新しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/